

# 大阪大学工業会海外交流助成金 「渡航報告」

〔学生の部〕

## 海外渡航報告書

大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学  
博士3年 李華

2008年10月16日から18日中国北京の清華大学で開催した2008年度「中国環境行為学会（EBRA）」に参加しました。

環境心理学は環境と人間心理の間の相互関係と相互影響、つまり人間と環境の関係を研究する科学で、「中国環境行為学会」は中国で初めて心理学と建築学二つの領域の研究者たちが共同で結成運営した団体です。その大会で、生理学、心理学、社会学、建築、都市計画、文化人類学など、多くの分野の研究が一つの場において、発表と議論ができます。

1993年から始めたこの大会は、今回では8回目になりました。今回では文化と経済が急速に発展している中に、社会各階層で生活する人々の心理需要と価値観などに基づいて、その生活品質の改善を主題としました。私が発表したのは、中国の都市公園で毎朝集まって太極拳やダンスなど運動する老人たちの日常生活、それに近年の都市再開発による影響についての研究です。

中国で開催する今回の大会には、世界各国の研究者が集まりました。日本からも、環境心理学会（MERA）をはじめ、多くの先生と大学院生が参加して、各領域の最新の研究論文を発表しました。元々、現在中国で環境心理学を専門とする先生たちは、その多くが日本での留学か共同研究の経験があつて、今も強い連携関係があります。以前は大会で発表するのは英語のみに規定されたが、今回では特別に日本語での発表も認められました。日本と中国の環境心理学分野での協力関係は、これからいっそう強くなると思います。

私は中国上海の出身で、北京に行くのは初めてです。ちょうどオリンピック大会が終わったばかりなので、学会の合間に北京市を散策しました。鳥の巣や国家水泳センターなど新築した有名な建物を見て、確かにすごいと思ったが、それ以上に良いものもあります。大規模宮殿のすぐ近くに散らばっている四合院や、巷に昔と同じように人溢れる市場などを見て、生き生きとした北京の都市風景を頭に焼き付けました。

日本に長年滞在して、スケールの小さい町や道路に慣れた私にとって、もう一つ印象的なのは、北京のスケールが大きいことです。地図上で街区2つしか離れてないところに行く時、2時間もかかりました。交差点を間違っ、次の角で曲がろうとしたが、結局また1キロ以上歩きました。それは、極端な例だけかも知れません。

今回、私は大阪工業会から助成金を頂いて、自分の研究を世界中の研究者たちと一緒に議論を行って、最新の研究と情報も受け取ることができました。また、北京の建築と都市計画を体験すると同時に、一般市民の生活風景も楽しむことができました。本当にありがとうございました。私は良い研究成果ができるよう、さらに、自分もいつか後輩の研究者たちの研究に貢献できるよう、これからも頑張りたいと思います。

改めて、感謝をいたします。

海外交流助成金「渡航報告」は、提出されたままを掲載しております。

## 海外渡航報告書

大阪大学 地球総合工学 博士後期課程 2年  
朴度炫

[参加会議]The 5<sup>th</sup> International Symposium on Steel Structures(ISSS'09)

[開催場所]Seoul, Korea

[開催期間]March 12-14, 2009

今回、参加する ISSS09 (International Symposium on Steel structures)は韓国鋼構造協会(KSSC)が主催する国際会議として2年に一度ずつ開催されます。全世界の鋼構造分野の研究交流が主要目的である。主に、韓国と日本、中国、台湾など東北アジア国の研究者たちがたくさん参加しています。特に、大阪大学出身の多くの先輩研究者たちが活発に活動しています。私の指導教授の卒業生たちが韓国の大学教授になって今度国際大会の各部門の Chairman で活動することが誇らしかったです。

国際会議日程は3月12日から14日までが公式日程でした。しかし、韓国の中央大学校土木工学科と共通セミナーがあって会議日程よりちょっと早い3月10日ソウルに到着しました。

ソウルの天気は日本の大阪よりはちょっと寒かったです。翌日は韓国の中央大学校の教員及び学生たちと一緒に研究交流セミナーをしました。中央大学校の教授が大阪大学出身で私の研究に対して多くの良い指導をもらいました。セミナー後には有名な食堂で食事をしました。

3月12日は同じ研究室仲間たちの発表を傾聴しました。特に後輩玉川君の発表がとても良かったと思います。午後には翌日私の口頭発表の練習をしました。3月13日午前に万般の準備を終えて [溶接不整が鋼構造物の力学的挙動に及ぼす影響]に関する口頭発表をしました。発表時間は15分間だったがとても短いと感じました。英語発表なのでちょっと緊張したがよくしたと思います。仲間及び先生も発表をよくしたと言って気持ちが良かったです。しかし、質問がなくてちょっとさびしかったです。

母国である韓国の鋼構造協会が主催する国際会議に参加するようになってとても嬉しかったです。特に、国際会議場である Prima hotel で長い間の知人と先後輩たちに会って嬉しかったです。



仁川大橋 (現場見学)

## 海外渡航報告書

地球総合工学専攻 博士後期課程 1年

玉川新悟

【参加会議】 The 5th International Symposium on Steel Structures (ISSS'09)

【開催場所】 Seoul, Korea

【開催期間】 March 12-14, 2009

3月の韓国ソウルは大阪に比べて気温が低く、仁川空港に降り立った私は、薄着で来たことを後悔した。拙い英語と留学生から教わった韓国語を駆使しながら、国際会議の会議場かつ宿泊所である Prima ホテルへと向かい、翌日の12日から14日までの3日間にわたり開催される ISSS'09 に備える。ISSS'09 は、韓国鋼構造協会 (KSSC) が主催する国際会議であり、今回で5回目を数える。本会議の目的は、鋼構造に関する近年の成果を多角的に議論する場を設けることにある。会議は、午前9時に始まり途中ランチタイムとコーヒープレイクを挟んで午後6時まで口頭発表が続く。私の発表は、初日の13時からのセッションに予定されていた。海外での口頭発表が初めてであった私は、モーニングコールを待たず起床し、肌寒い朝のソウルを散歩しながら、発表内容を頭の中で反芻した。朝食と昼食を終えたのち、いざ会議室に向かう。私の発表内容は、腐食損傷した鋼構造部材が示す力学的挙動に関するものであった。私は、レーザーポインタの使用法とスタンドマイクの高さに苦戦しながらも、15分の発表を終えた。全体的に、質疑応答の際の盛り上がりには欠けたことは残念であったが、口頭発表は比較的満足な結果であった。こうして、緊張の口頭発表は終了した。この日は、私の所属する研究室の先生と学生に加え、韓国の中央大学 (Chung-Ang University) の Chang 先生率いる研究室の方々の総勢15名余りで夕食会が催された。我々学生は、日・韓・英語が飛び交う中、焼肉を御馳走になり、夜まで飲み交わした。翌日は、韓国料理の洗礼を受けた舌の痺れと、前日のお酒によるまどろみの中、会議に出席した。いくつかの興味深い発表を拝見し、同研究室の学生の発表を見守った。この日の夜は、中央大学の方々に加え、大阪大学の他の研究室の学生を含む総勢20名余りで宴会が催された。非常に楽しい宴会となった。翌日、我々は韓国の地に別れを惜しみつつ、帰路についた。

今回の渡航は、海外で口頭発表するという貴重な経験に加え、韓国の学生との友好的なコミュニケーションを図る場を与えていただいた。このような有意義な渡航は、大阪大学工業会のご支援によるものであり、ここに深く感謝する。



会議場の Prima ホテル



口頭発表の様子